

「確かな学力の育成」を目指して

子どもたちの「生きる力」をはぐくむためには、確かな学力が必要です。そこで県南教育事務所では、学力向上の3つのポイントを設定し取り組んでいます。管内小・中学校研究主任研修会もこの3つのポイントを中心に実施しました。

- ① 各種学力調査の分析をふまえた授業改善を図る。
- ② 教員一人一公開授業を目指す。
- ③ 授業と連動した計画的な家庭学習を推進する。



3つの選択研修

講義A 研究主任の役割と研究の進め方

- ◆ 研究主任の主な役割は、「学校の研究計画の立案・実施」「連絡調整」「指導・助言」である。
- ◆ 常に「子どものため」という視点で研究を進め、真のリーダーシップを発揮することが重要である。
- ◆ 研究のポイントは3つ。①日々の教育活動との一体化 ②協働 ③教師一人一人の実践力の向上

講義B 校内研究の充実に向けた取組について

- ◆ 3つの「検討の視点」に沿って、取組の状況をチェックするとよい。

視点1：教師一人一人の授業力向上を図ることのできる校内研究の体制

視点2：校内の研究の進め方

視点3：関係機関との連携、研究情報の収集

- ◆ 研究構想シートを活用して、研究の全体構想をまとめると具体的なイメージをもつことができる。

講義C 特別に支援を要する児童生徒の学習指導

- ◆ 「障がい」と「個性」は違うことを理解する。
- ◆ 障がいの種類によって、支援の仕方が一つ一つ違う。板書の書き方、色の使い方、字の大きさ、声の大きさ、説明の仕方など、子どものニーズに合わせた支援が重要である。

学力向上の取組について(実践発表より)

2つの学校より、実践発表をいただきました。

《一関市立山目小学校 澤野 郁文 先生》

- ★ 「すべての子に確かな学力を」つけさせるために、研究主任として何に取り組むのか考える。
- ★ 研究会では、ファシリテータ(補助役・まとめ役)として機能できるようにする。

- ★ 授業改善を目指した研究会として、写真や映像の活用や協議の二重方式の採用、KJ法などを取り入れていきたい。



《奥州市立水沢中学校 本田 守 先生》

- ★ 授業力の定義は、(教材把握力×子ども把握力×授業技術力)×精神エネルギー
- ★ 教師の指導よりも、生徒の学びを見取り、教科の垣根を越えてそれを語り合うようにする。
- ★ 生徒も教師も、ともに学びたいと思う学校を目指して、「チーム水中」として研究を進めている。



<研修者の感想から>

- 講義では、県のアクションプランと県南教育事務所の方針、各学校の実践をつなぐ説明をいただき、私たちがどこに向かって何を抛り所に自校の取組を進めていくのかははっきりとわかりました。
- 同じくらいの学校規模の研究主任同士で話すことで、研究会のもち方、授業改善につなげる方策などを具体的に話すことができたのは大変よかったです。先生方の意識の高まりをもてるような校内研究会にしたいと感じました。

学力向上の取組について (重点施策より)

- 岩手県が目指している指標は、「授業の内容がわかる」と答えた児童生徒の割合を増やすことです。
- 県南教育事務所では、授業改善の視点として、特に「板書の工夫」と「ノートの工夫」に取り組んでいます。
- 授業と連動した計画的な家庭学習の実施を目指します。計画的とは、「適切な量」「適切な質」「点検評価」の3つのことです。

